

株式会社アイ・エス・ビー

2015年12月期 第2四半期決算説明会

2015年8月12日
証券コード:9702

1. 会社概要

2. 2015年12月期第2四半期 決算説明

3. 連結分野別状況

4. 中期経営計画について

1. 会社概要

1-1. 会社概要



社名・商号

株式会社 アイ・エス・ビー
I S B CORPORATION

URL

<http://www.isb.co.jp>

設立

1970年6月4日

代表者

代表取締役社長 若尾 逸雄

事業所

本社・新横浜事業所・三島事業所・甲府事業所・我孫子事業所・
大阪事業所・五反田事業所・名古屋事業所・データセンター

決算期

12月

従業員数

連結 1,190名（2014年12月末比35名増）

資本金

17億752万円

発行済株式総数

5,105,800株（100株単位）

上場市場/コード

東証1部 / 9702

主幹事証券

大和証券株式会社

上記情報は全て、2015年6月30日現在

THE ISB WAY

MISSION

私たちは、先見的で卓越した技術力を核とし、チーム ISB の知恵を結集させて、顧客や社会のこれからの役立つ解決策を提案することを、組織の使命とします。

VISION

よりよい ICT 社会を実現するチーム ISB

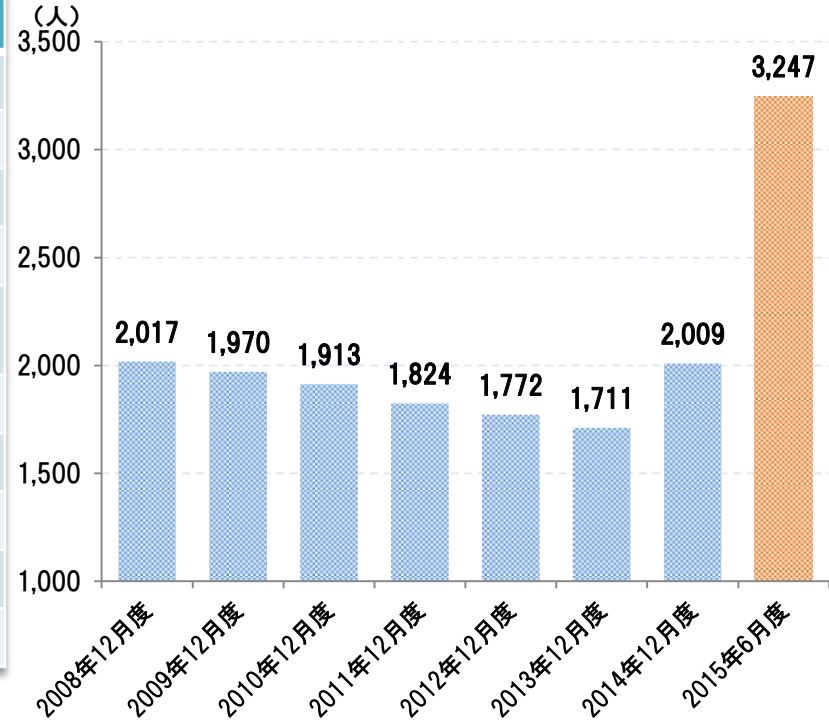
1. 卓越した技術とサービスを提供するチーム ISB
2. 国際競争を勝ち抜くチーム ISB
3. 次世代に通用する人材を育成するチーム ISB

1-3. 株式の状況

◆大株主情報 (2015年6月末)

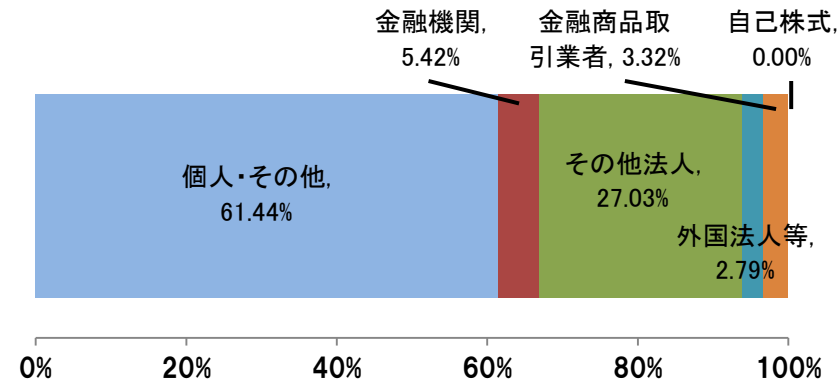
株主名	持株数(株)	持株比率
有限会社若尾商事	1,200,700	23.51%
アイ・エス・ビー従業員持株会	324,000	6.34%
若尾 一史	135,500	2.65%
株式会社第一情報システムズ	90,000	1.76%
ROYAL BANK OF CANADA (CHANNEL ISLANDS) LIMITED-REGISTERED CUSTODY	80,000	1.56%
株式会社SBI証券	79,200	1.55%
稲葉 正作	65,400	1.28%
株式会社KSK	61,600	1.20%
日本証券金融株式会社	54,300	1.06%
岡田 健樹朗	40,100	0.78%

◆株主数の推移



◆所有者別株式分布状況 (2015年6月末)

	株主数	株式数	株式数分布比率
個人・その他	3,136	3,137,068	61.44%
金融機関	19	276,600	5.42%
その他法人	33	1,380,250	27.03%
自己株式	1	6	0.00%
外国法人等	28	142,500	2.79%
金融商品取引業者	30	169,376	3.32%



2. 2015年12月期 第2四半期決算説明

2-1. 2015年12月期 2Q連結損益計算書

(単位:百万円)	2014年12月2Q期累計		2015年12月期2Q累計		前年比	
		構成比		構成比		増減率
売上高	7,057	100.0%	6,127	100.0%	△929	△13.2%
売上原価	6,198	87.8%	5,396	88.1%	△802	△12.9%
売上総利益	858	12.2%	731	11.9%	△127	△14.8%
販売管理費	630	8.9%	639	10.4%	9	1.4%
営業利益	227	3.2%	91	1.5%	△136	△60.0%
経常利益	218	3.1%	76	1.2%	△142	△65.1%
特別損益	253	3.6%	2	—	△251	—
法人税等合計	72	1.0%	51	0.8%	△21	△29.2%
当期純利益	381	5.4%	26	0.4%	△354	△92.9%

◆売上高

モバイルインフラ分野の研究開発関連業務が、大きく減少したことが主たる要因。

◆利益

主に新事業投資などの影響により、各段階利益は前年同期を下回った。特に、当期純利益に関しては、前年同期に2億95百万円の負ののれん発生益を計上した影響で大幅な減少となった。

期首予想に対しては、各段階ともに既存事業の売上総利益が若干予想を上回ったことと、新事業投資の一部が下期にずれ込んだことで、多少予想を上回った。

◆工事進行適用による影響額

	2014年度2Q	2015年度2Q
売上高	1,019百万円	208百万円
粗利益	177百万円	28百万円

◆期末仕掛残高比較

2014年6月末	2015年6月末	前年比
319百万円	234百万円	△85百万円

2-2. 2015年12月期 2Q連結貸借対照表

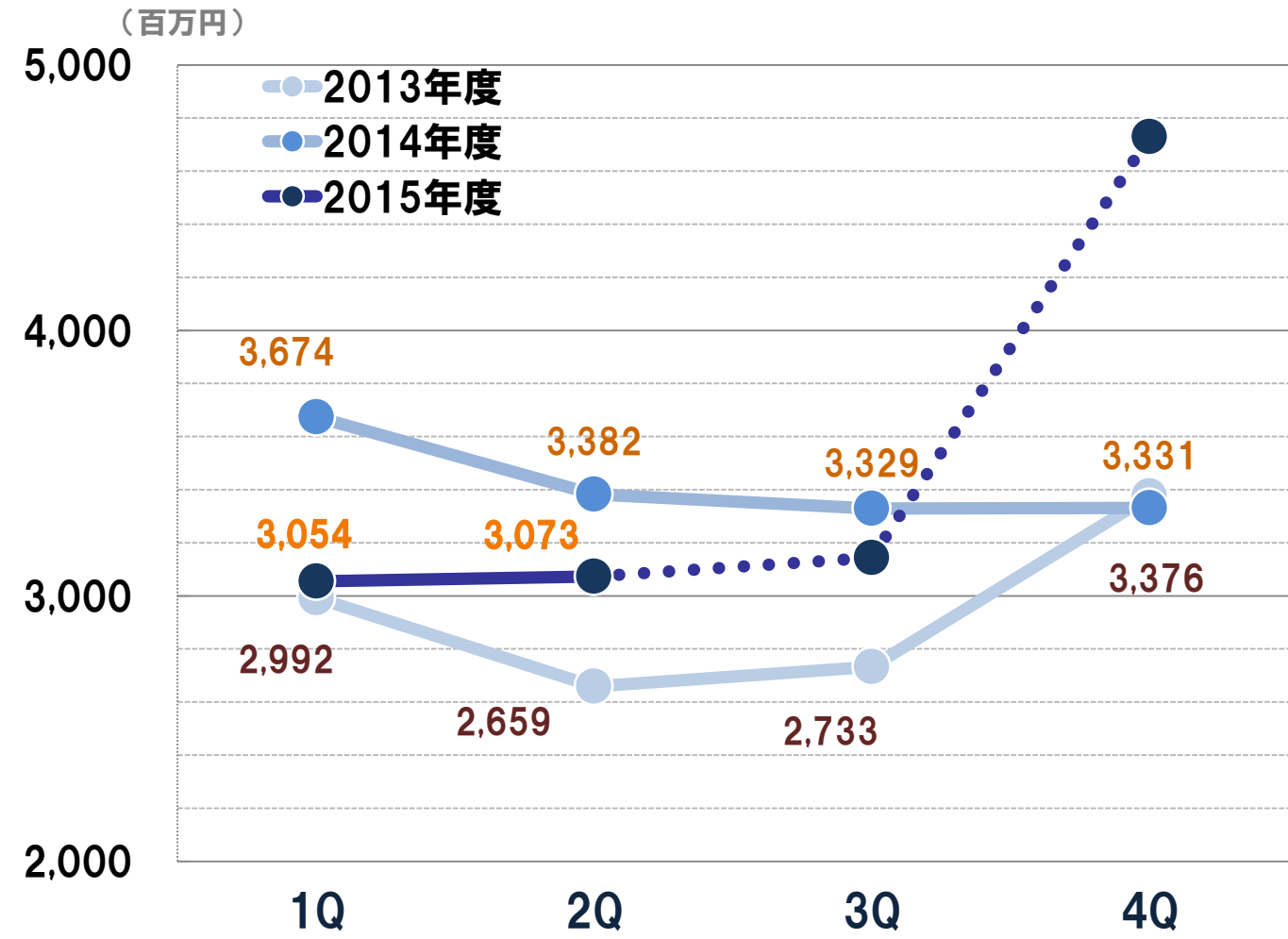
(単位:百万円)	2014年 12月期	2015年 12月期 2Q	前年比	(単位:百万円)	2014年 12月期	2015年 12月期 2Q	前年比
流動資産合計	5,567	5,515	△51	流動負債合計	2,447	1,399	△1,047
現金・預金	2,223	2,791	567	支払手形及び買掛金	754	626	△128
受取手形及び売掛金	2,760	2,061	△698	短期借入金	681	70	△611
商品	24	17	△7	未払消費税等	339	124	△214
仕掛品	205	234	28	固定負債合計	245	218	△26
固定資産合計	1,568	1,525	△42	株主資本合計	4,409	5,369	959
有形固定資産	459	465	6	利益剰余金	1,422	1,349	△72
無形固定資産	327	348	20	純資産合計	4,443	5,422	979
投資その他の資産	781	711	△70	負債純資産合計	7,136	7,041	△94
資産合計	7,136	7,041	△94				

◆主要ポイント

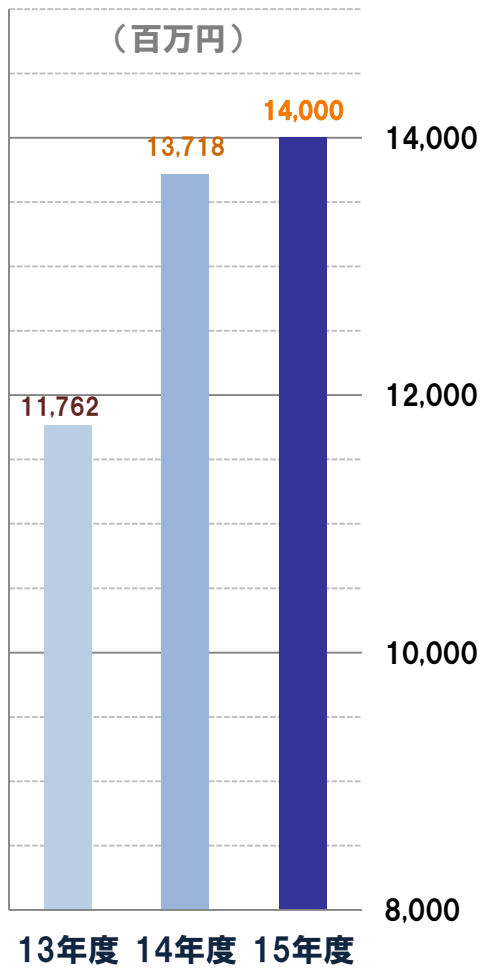
- ①当上期に増資等実施→純資産増加。
- ②短期借入金返済→流動負債減少。
- ③受取手形及び売掛金の減少から支払手形及び買掛金の減少分を減じた分程度の現預金増加。
- ④自己資本比率は前期末62.3%から当四半期末77.0%に上昇。

2-3. 連結売上高 前期比較

【四半期毎 連結売上高推移】

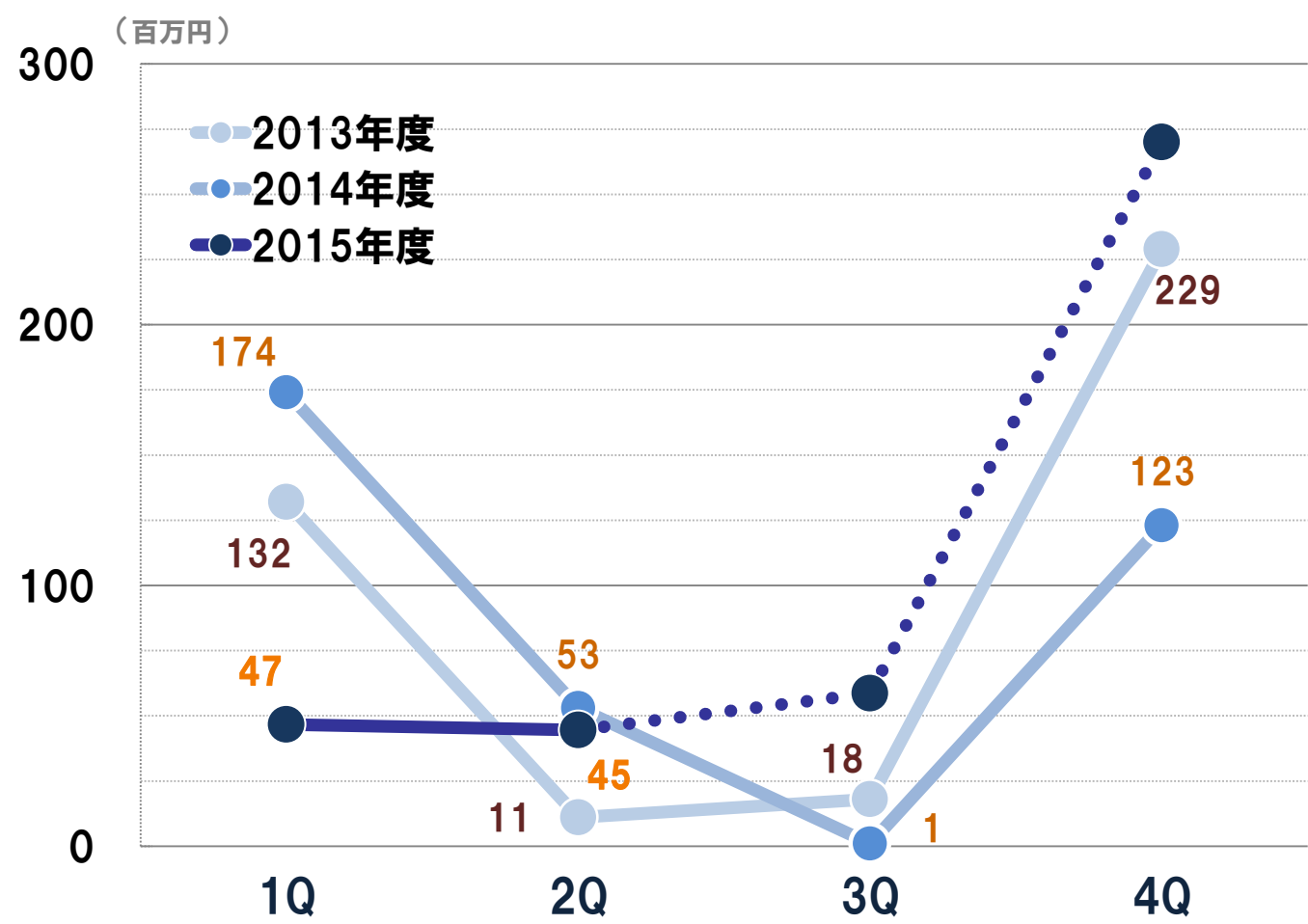


【通期連結売上高】

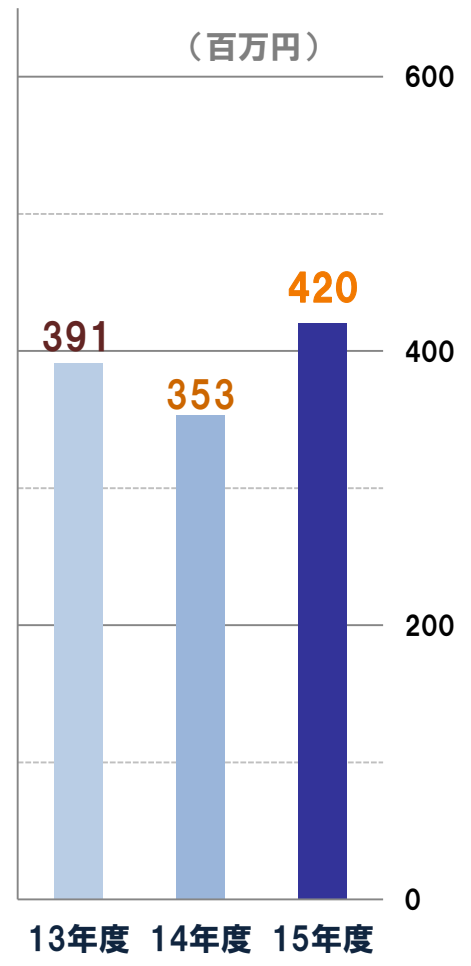


2014年・・・一時的な研究開発案件の売上があり、通常推移と異なる。
 2015年・・・新事業の売上を下期に加味していることもあり下期偏重。

【四半期毎 連結営業利益推移】



【通期連結営業利益】



売上高同様に研究開発案件の縮小と新事業投資で前期を下回っている。

2-5. 2015年12月期 2Q連結キャッシュフロー計算書

単位: 百万円	2014年12月期 2Q	2015年12月期 2Q	増減額
営業活動によるキャッシュフロー	1,434	416	△1,017
投資活動によるキャッシュフロー	5	△111	△117
フリーキャッシュフロー	1,439	304	△1,135
財務活動によるキャッシュフロー	32	263	231
現金及び現金同等物の増減額	1,471	567	△903
現金及び現金同等物の期首残高	950	2,223	1,272
現金及び現金同等物の期末残高	2,422	2,791	368

◆ 主要ポイント

【営業活動によるCF】

税引前当期純利益	78百万円
減価償却費	70百万円
売上債権の減少額	701百万円
仕入債務の減少額	▲128百万円
未払消費税等減少額	▲214百万円

【投資活動によるCF】

有形固定資産取得支出	▲34百万円
無形固定資産取得支出	▲73百万円

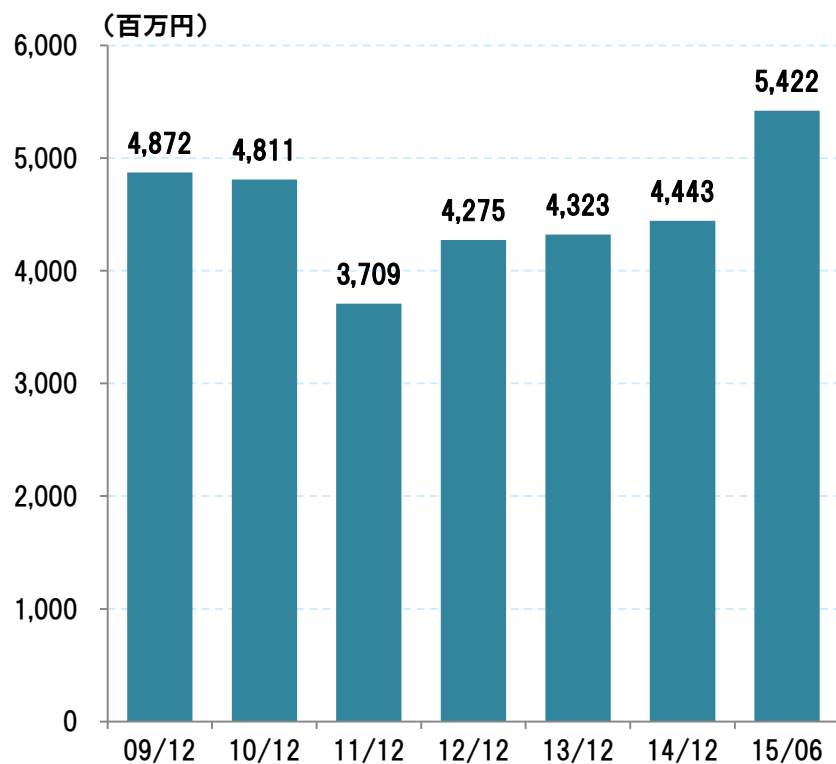
【財務活動によるCF】

短期借入金減少額	▲600百万円
配当金の支払額	▲98百万円
長期借入金返済	▲37百万円
株式の発行による収入	533百万円
自己株式処分による収入	497百万円

株主価値・企業価値の最大化に向けて

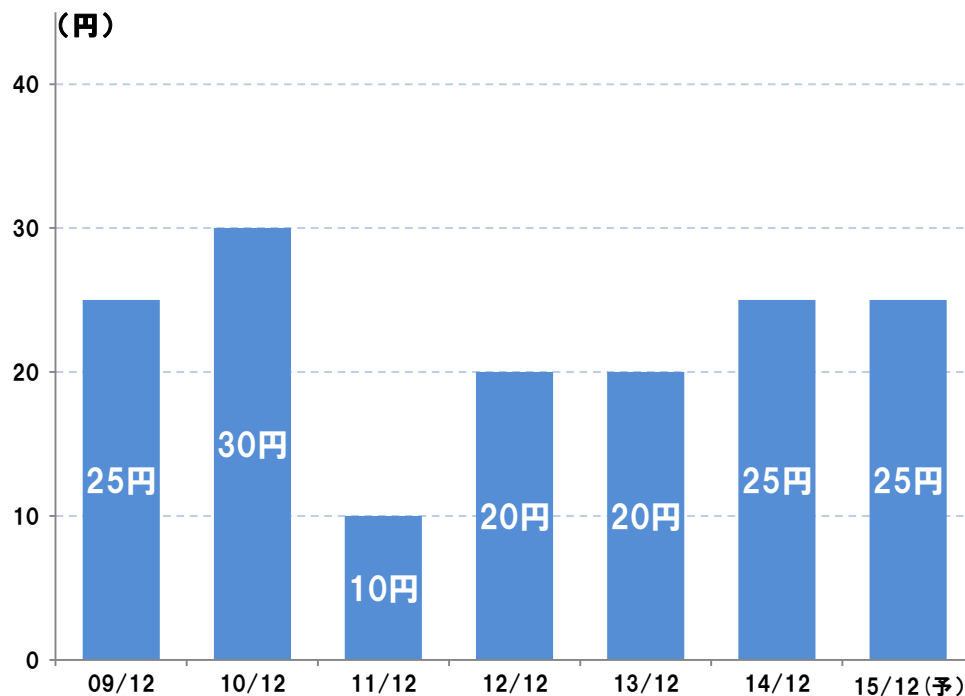
- 事業拡大・利益増加による時価総額増大を目指す。
- 内部留保を勘案の上、可能な限り安定した配当を継続していく方針。
(配当性向は30%を目標に)

◆ 純資産の推移



◆ 一株あたり年間配当金推移

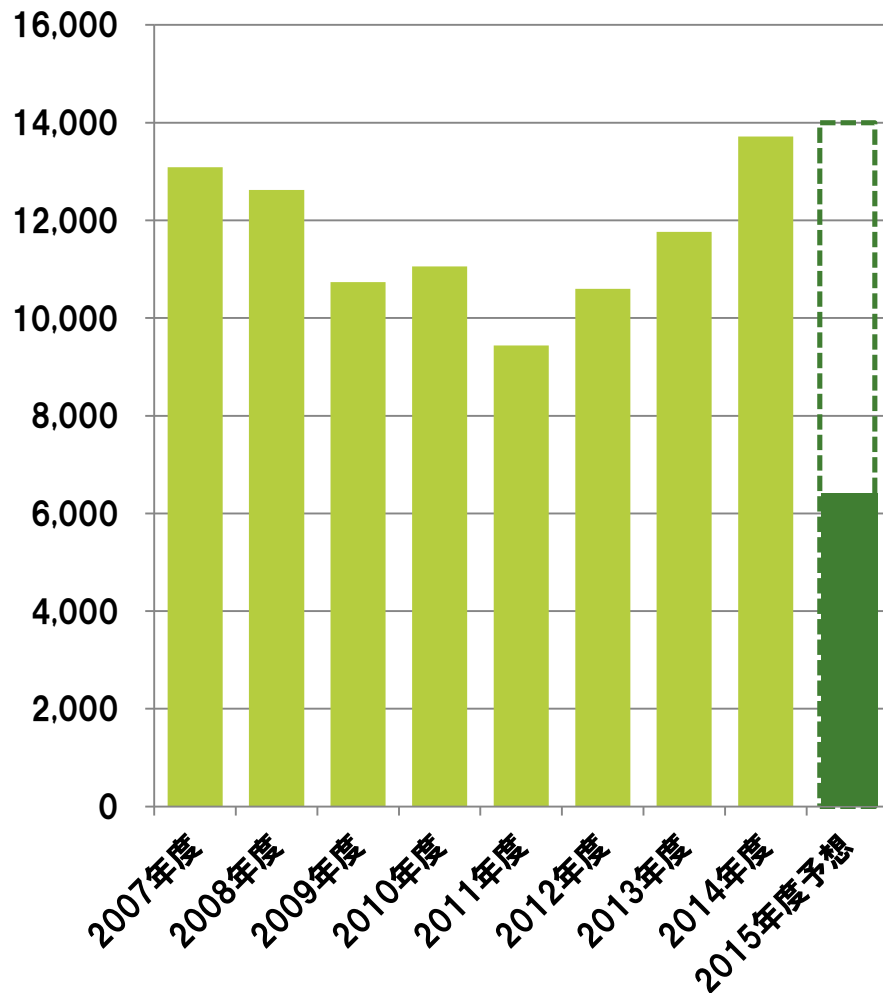
(普通配当・特別配当・記念配当を含む)



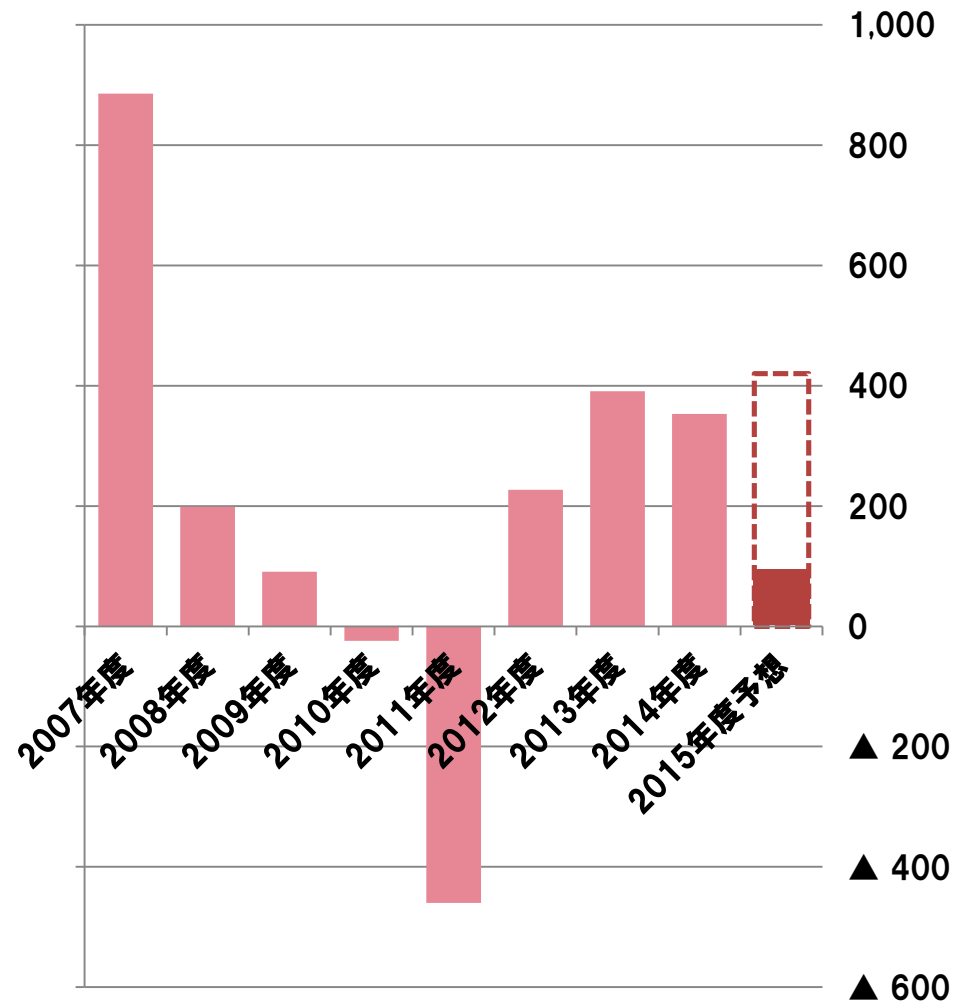
3. 連結分野別状況

3-1. 連結売上高と営業利益の推移

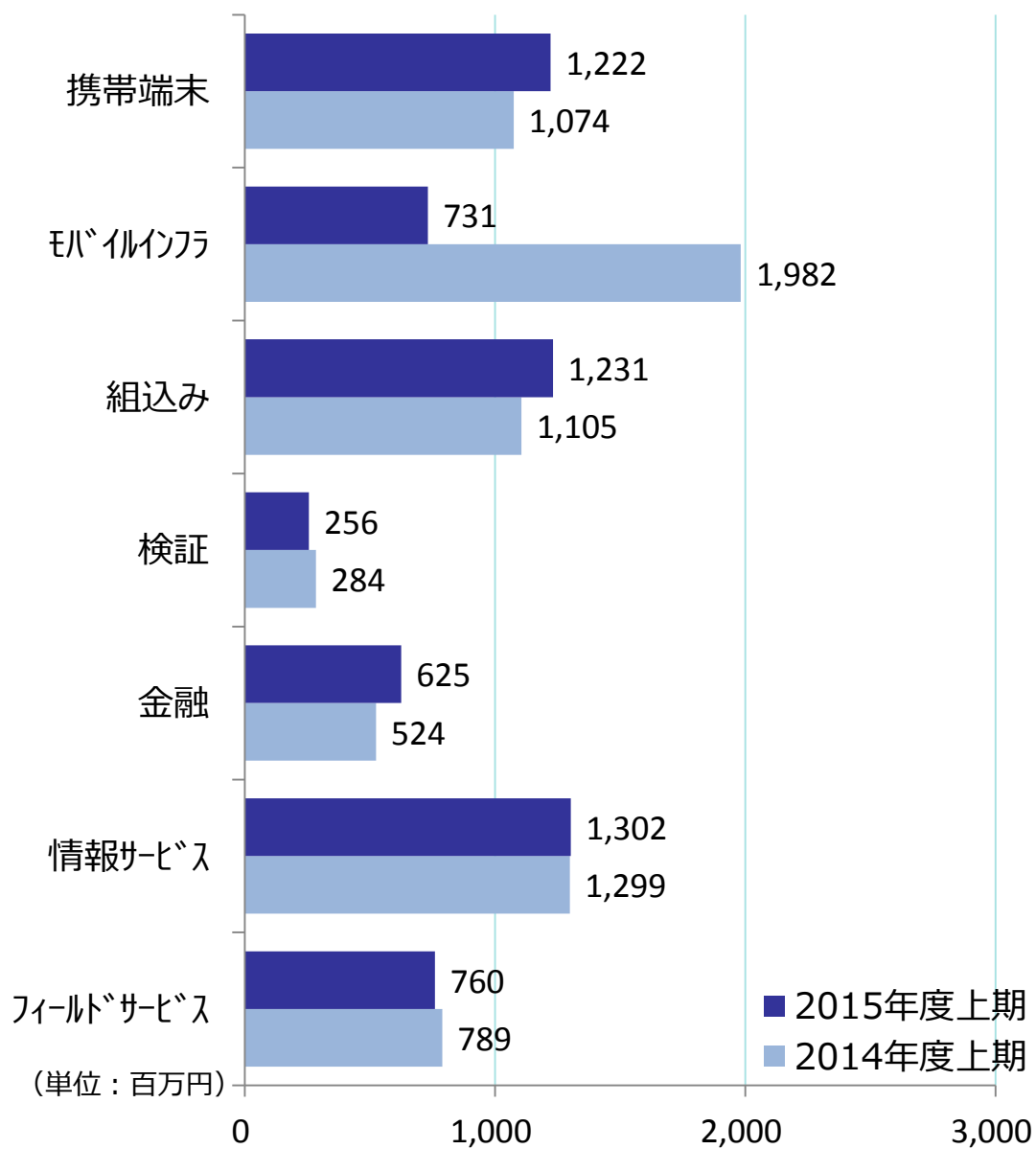
連結売上高(百万円)



連結営業利益(百万円)

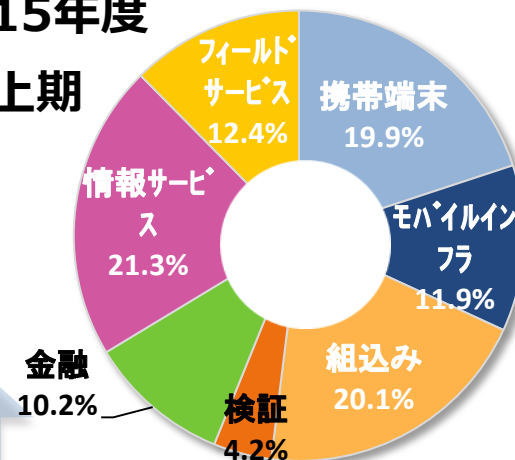


3-2. 連結分野別売上高構成比 前期比較



2015年度

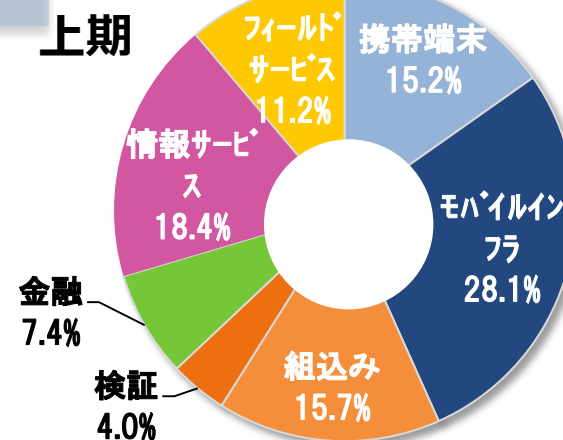
上期



「組込み」分野にて、
有望業種からの受注増を図ります。

2014年度

上期



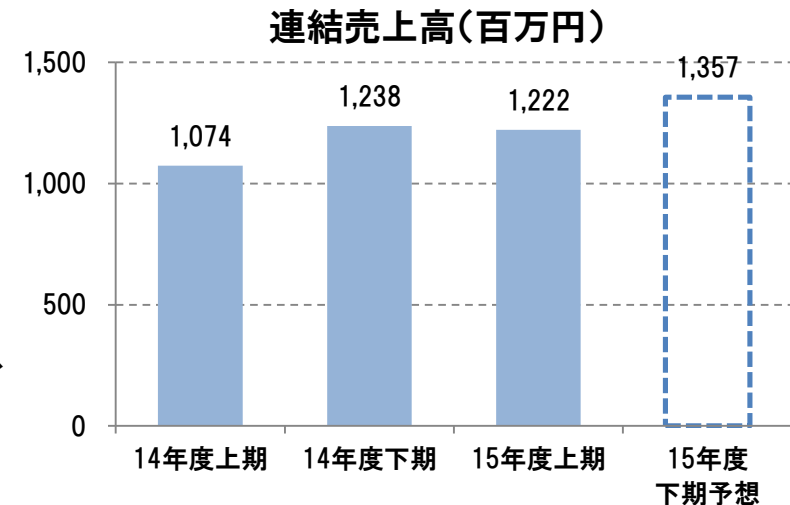
携帯端末

◆2015年度上期

主力メーカーからのスマートフォン開発受注が堅調のため、昨年同期比並みを確保。

◆2015年度下期

主力メーカーからのスマートフォン開発受注に加え、ニアショアを含めた提案を進め、売上増を予想。



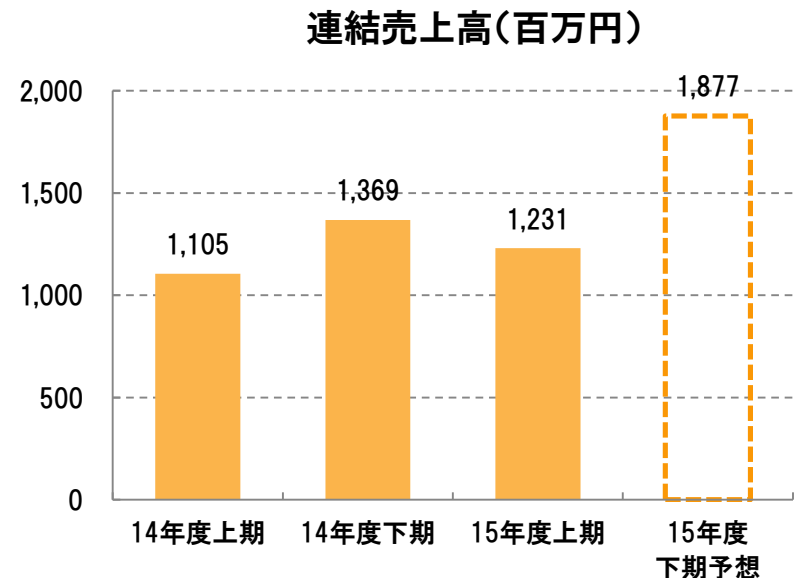
組込み

◆2015年度上期

医療・車載業務に関しては、引き続き受注増となったが、エレクトロニクスメーカーからの受注減により、昨年下期を大きく下回った。

◆2015年度下期

医療・車載業務の新規取引先からの受注拡大やエレクトロニクスメーカーからの受注、当社製品の販売により、受注の増加を目指す。



モバイルインフラ

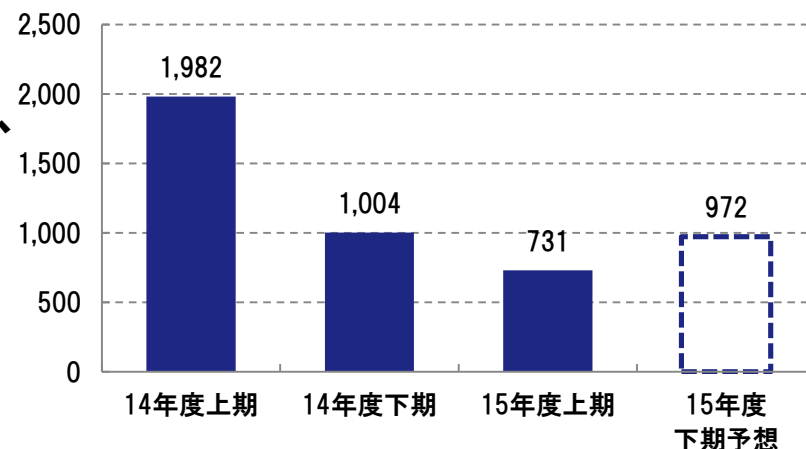
◆2015年度上期

一時的に膨らんだ研究開発案件の減少に伴い、大きく受注減となった。

◆2015年度下期

既存業務での受注量の確保と新規取引先での拡大を目指す。

連結売上高(百万円)



検証

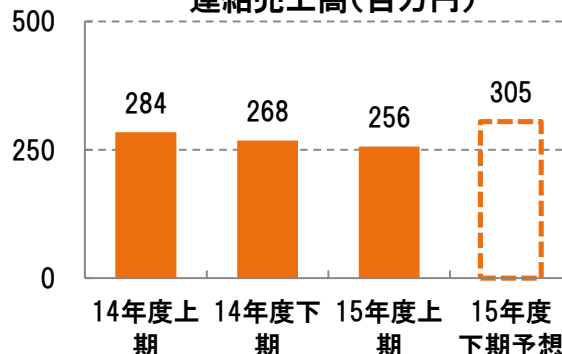
◆2015年度上期

開発自体の動きが鈍く、受注が低調。

◆2015年度下期

評価エンジニアの育成を進めつつ、GIOT社などのニアショア展開を進め、売上増を目指す。

連結売上高(百万円)



金融

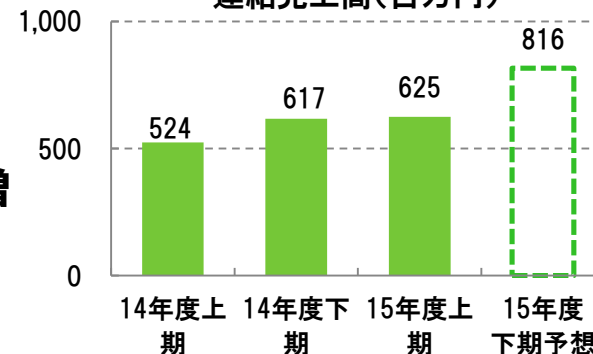
◆2015年度上期

景気回復に伴う金融業界の活況を受け、銀行・証券等の開発量増加を享受。

◆次期 2015年度下期

銀行・証券系案件の受注は好調に推移すると予想し、売上増を予想。

連結売上高(百万円)



情報サービス

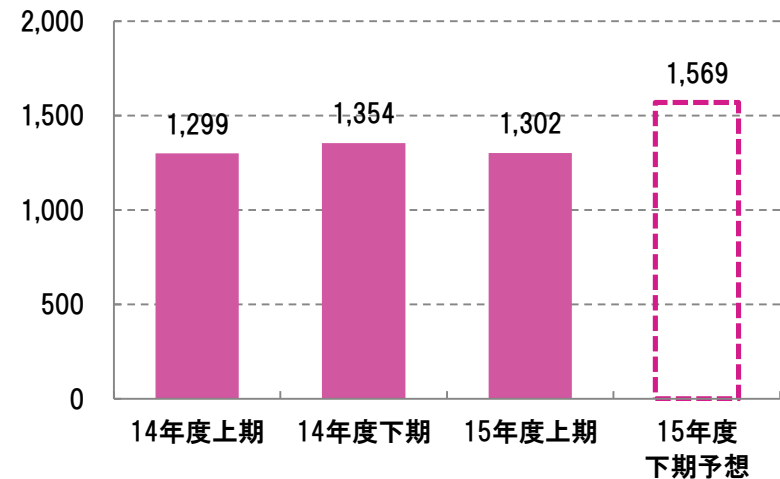
◆2015年度上期

民間企業からの受注や、自治体関連業務での売上増があったものの、官庁関連業務の縮小に伴い、昨年並みの受注量となった。

◆2015年度下期

民間企業からの大型案件受注や、官庁・自治体関連の新規案件受注による売上増を目指す。

連結売上高(百万円)



フィールドサービス

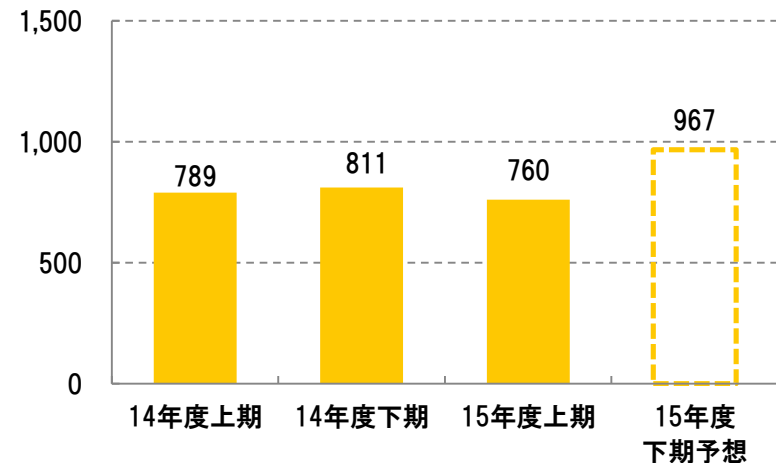
◆2015年度上期

ハウジング業務の縮小により、前年より若干の売上減となった。

◆2015年度下期

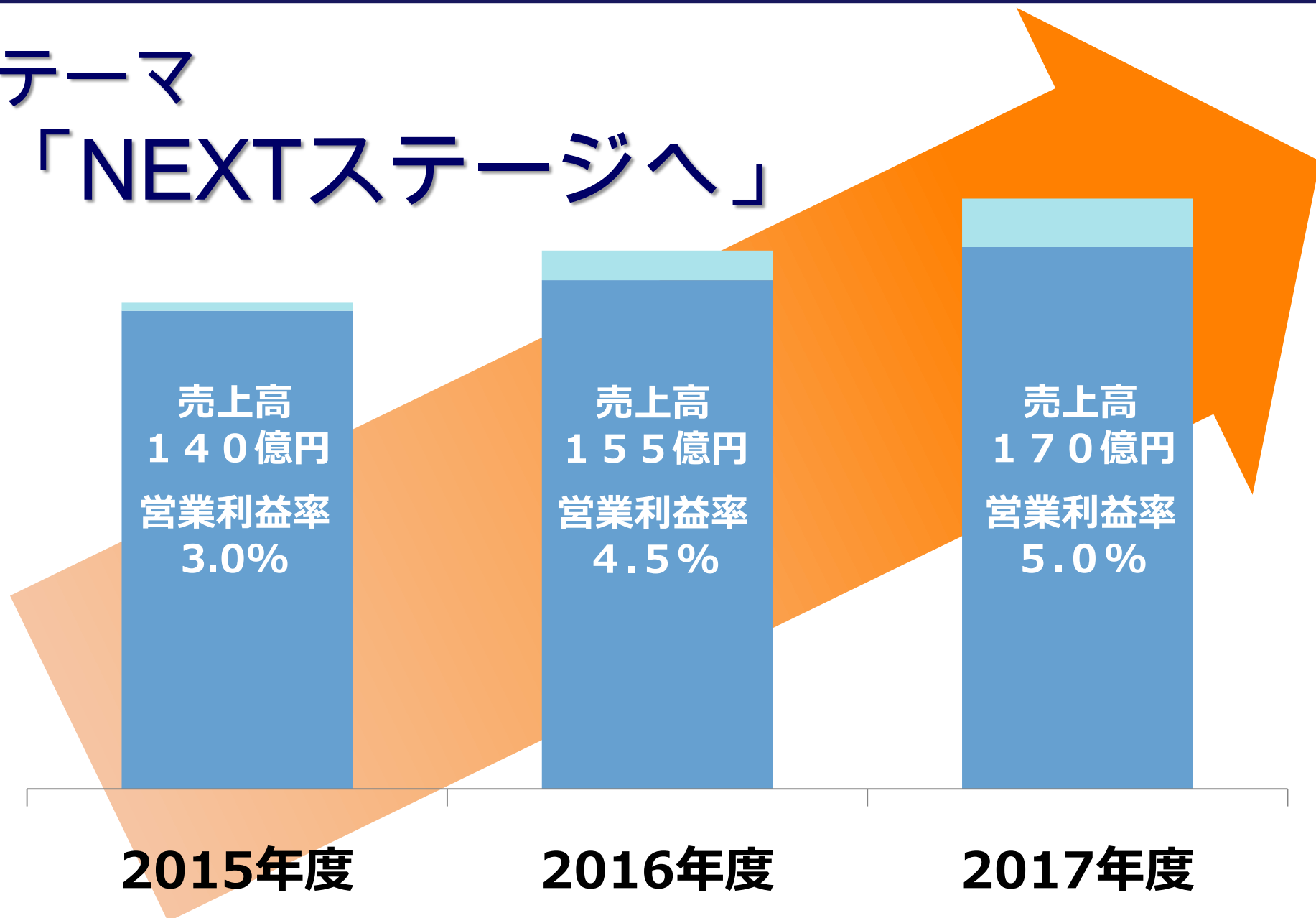
クラウド関連業務の更なる受注拡大を目指し、売上増を予想。

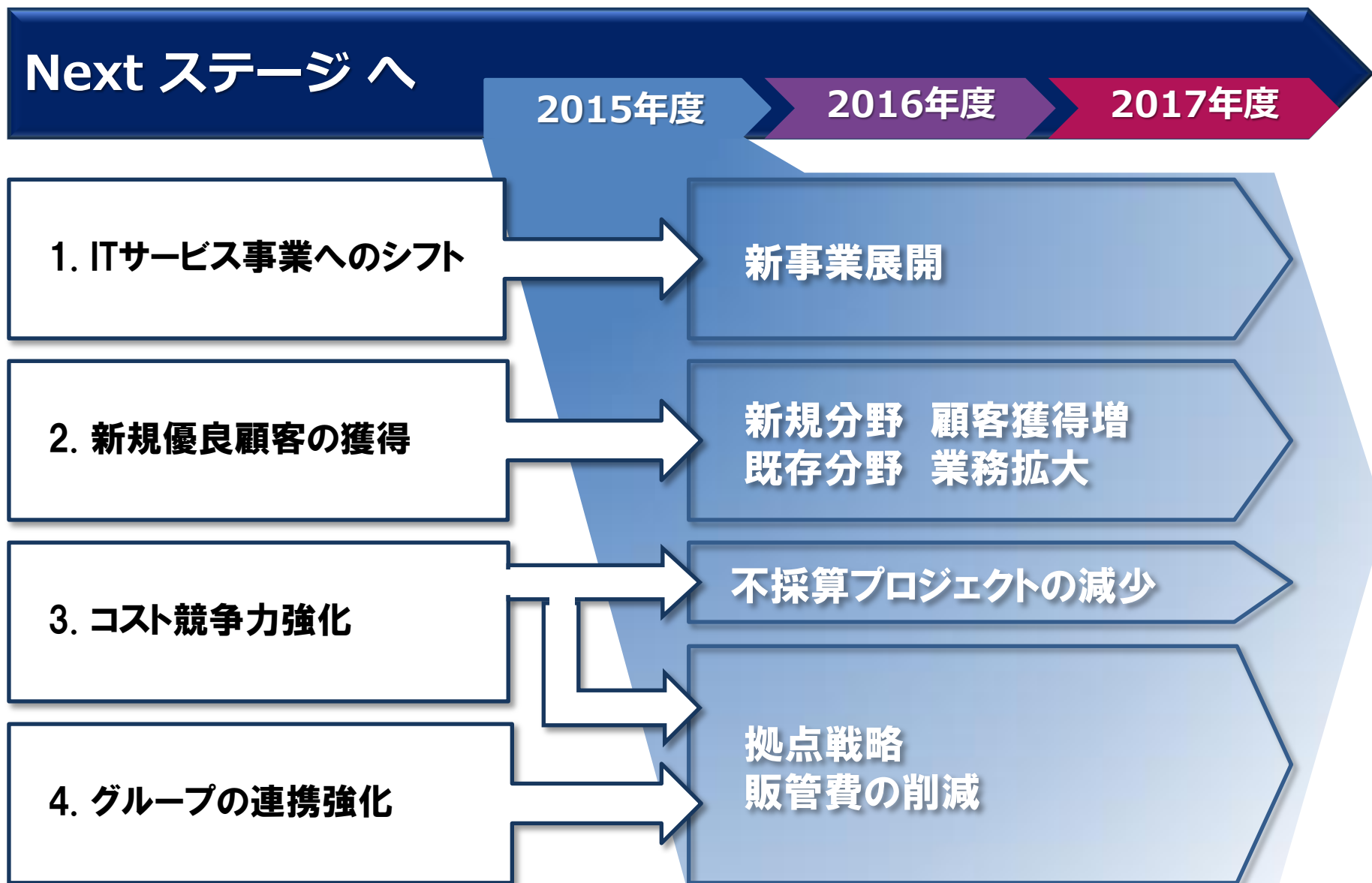
連結売上高(百万円)



4. 中期経営計画について

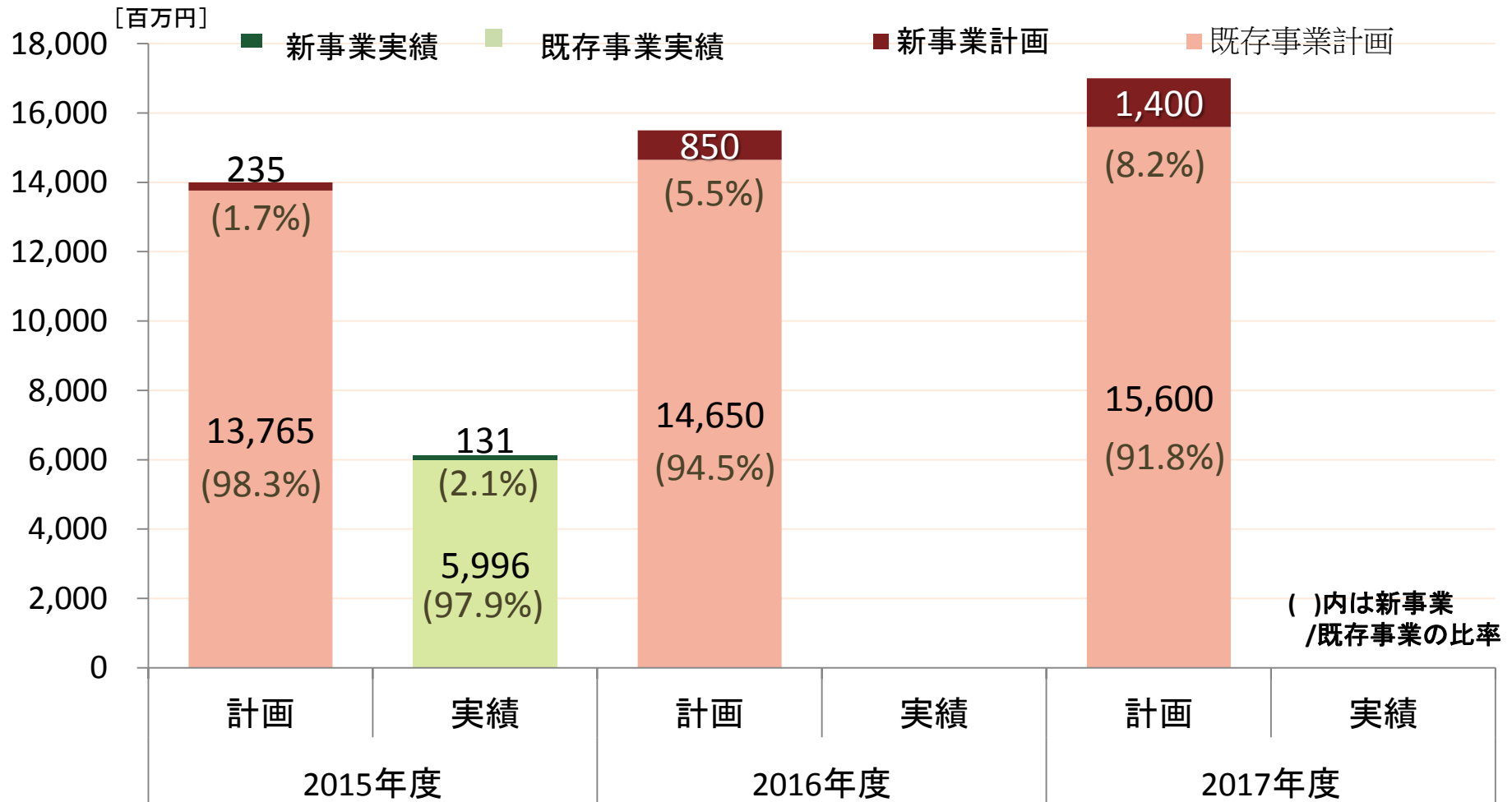
テーマ 「NEXTステージへ」





・受託開発で培った技術・ノウハウの活用 →必要とされるソリューション展開へ

■新事業と既存事業の売上計画と実績



新事業

公共機関向け
ブロードバンド機器

公共BB

センサーデバイス向け
無線プロトコル



M2M
クラウドプラットフォーム

 dataSamplr

訪問看護向け
モバイルサービス



医療
ITソリューション



医療機関向け
レセプト解析サービス



既存事業



国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)の技術移転を受け、大容量かつ長距離の伝送や可搬型での迅速な設置が可能といった特徴を活かし、事故や災害・緊急事態など、公共性の高い情報サービスでの応用が期待されている。

想定される利用シーン

- ・ 大規模な地震、津波対策や風水害／火山噴火などへの防災・災害時支援
- ・ 2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向けたインフラ整備・都市整備



開発

機能の拡充



保守

製品品質の向上



販売促進

自社製品、エンジニアリングサービス、ライセンスの販促



異なる医療機器メーカーのデータを共通化し、いつでもどこでも確認ができる医療ITソリューション(Small Medical Solution)を提案。

News !

※詳細はお手元の資料をご確認ください

（利用シーン1）

兵庫県災害医療センター様に「広域医療搬送拠点用 X 線撮影装置」の付属機器として納入

（利用シーン2）

トーマコーポレーション様の「TOMEY Link」に「マルチプラットフォーム環境向けL-Share ライブラリ」が採用

Small Medical Solution



L-Share機器開発
ライブラリ
Viewer

機器／ライセンス販売
エンジニアリング、カスタマイズ、
コンサルティング、受託開発

利用シーン1



利用シーン2



センサーネットワークにおけるWi-SUN無線プロトコルスタックをベースにデバイス開発エンジニアリングの提供から無線技術を活かしたネットワークサービス、データセンターを活用したM2Mクラウドサービス及びアプリケーションサービスまでをトータルで提供。

News !

※詳細はお手元の資料をご確認ください



- ソリューションサイトオープン <http://m2m.isb.co.jp>
- 続々とdataSamplrに接続が可能になりました。
サン電子株式会社様 「Rooster GX」
オプション・ワイヤレス・ジャパン株式会社様 「CloudGate」
株式会社アイ・オー・データ機器様 「UDON」

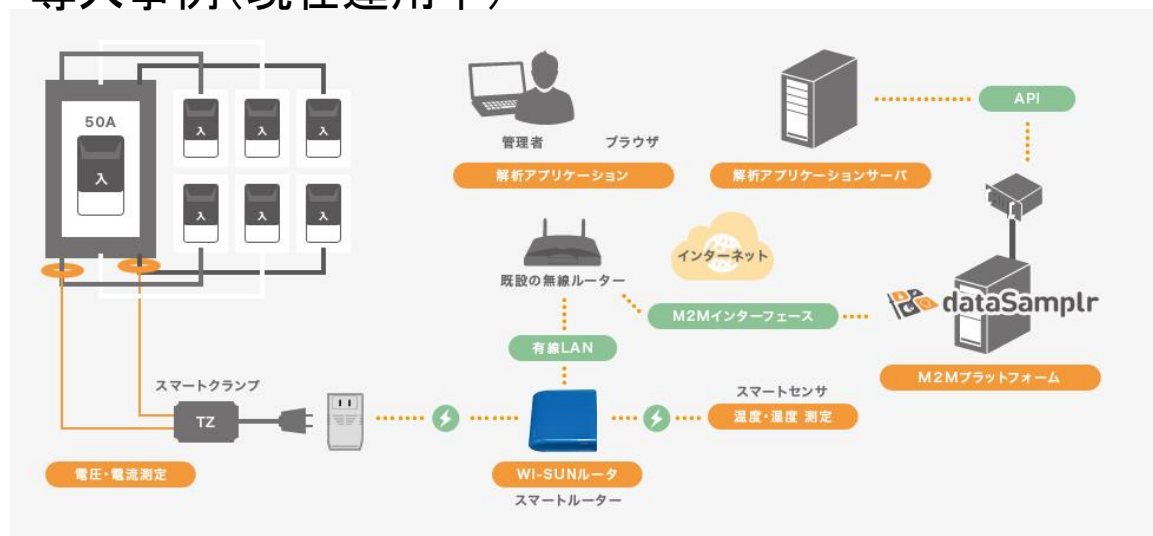
提供ソリューション

Wi-SUN
ソリューション

プラットフォーム
ソリューション

ワンストップ
ソリューション

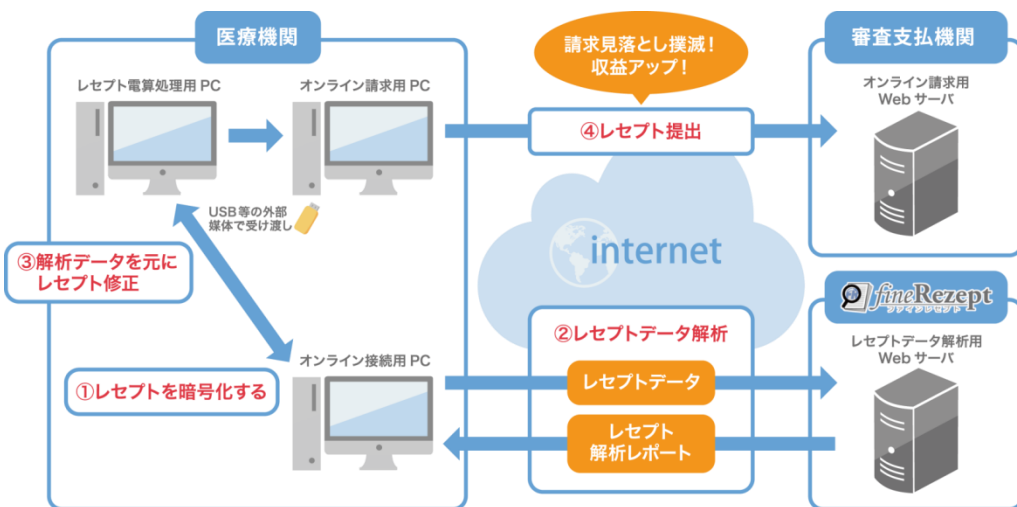
導入事例(現在運用中)



医療機関向けのレセプトチェックをクラウドで提供するWebアプリケーション。
医療機関が診療に関わる医療費を審査支払機関に請求する際に、請求見落とし等を防ぐことで収益力向上と事務作業の効率化を図ることが可能。

News ! ※詳細はお手元の資料をご確認ください

- ・業界初のクラウド型電子レセプト解析システム。としてサービスを開始。
- ・ファーストユーザも獲得。
- ・診療所、クリニックおよび、100床未満の病院（約103000か所）をターゲット。



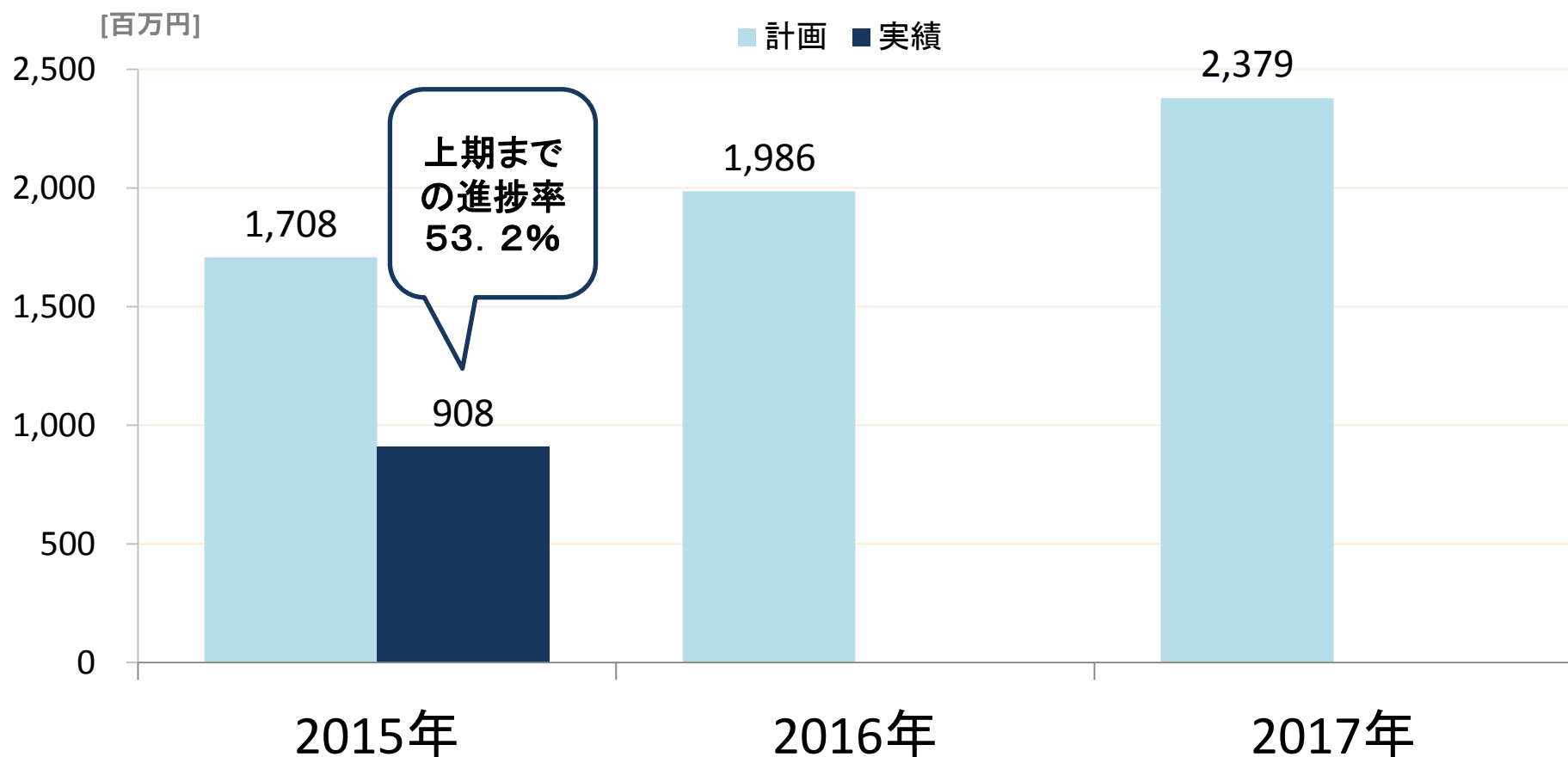
- ・ポータルサイトオープン
- ・販売代理店の確保
- ・展示会などでの知名度アップ



<http://www.finerezept.jp>

有望な産業分野への進出と優良顧客の獲得

■新規取引先 売上高計画と実績



生産性向上

- ・ 見積り精度の向上、及びプロジェクト監視強化による問題の早期発見により、
→低採算プロジェクト削減へ
- ・ プロジェクト管理強化と品質確保への取り組み
→顧客満足向上

販管費の削減

- ・ 10%まで低下することができたが、
中期経営計画においては、0.5%ずつの
低減を計画し、9%を目指す。

4-6. グループ連携強化(連結子会社紹介)

モバイルインフラ分野を中心に、
営業展開や業務の共有化などで、
シナジー効果を発揮。

シナジー効果



ノックス
データ
株式会社



イン
フィックス
株式会社

7月から子会社化。
得意分野は金融系・公共系業務

シナジー効果



株式会社
札幌システム
サイエンス

得意分野は公共系業務。



株式会社
アイエスピー
東北

産学官共同開発など、地元に
密着した事業展開。

(2015年7月現在)



株式会社
エス・
エム・シー

グローバル戦略



ISB
VIETNAM
COMPANY
LIMITED

従業員数は200名となり、
ISB以外の取引比率は概ね半分。



株式会社
GIOT

うるま市にベリザープ社と
共同出資して設立。
検証事業が中心。



創立30年。
得意分野はフィールドサービス。
今後は開発業務や、自社製品販売も。

オフショア



ニアショア



ITの人材不足をコスト面・人材面でも対応できる体制

コスト競争力の強化
技術／ノウハウの共有
得意分野の連携拡大



プロジェクトの要件に合わせて使いわけ

首都圏

	2014年12月期 実績	2015年12月期 予想	増減率
売上高	13,718 百万円	14,000 百万円	2.1 %
営業利益	353 百万円	420 百万円	18.9 %
経常利益	366 百万円	421 百万円	14.8 %
当期利益	474 百万円	252 百万円	△46.9 %
配当金 配当性向 純資産配当率	25 円 21.0 % 2.3 %	25 円 — % — %	

2014年12月

2015年6月

株式数

452万株



510万株

純資産

44億円



53億円

株主数

2,009



3,247

個人株主

1,950



3,139

金融機関

その他法人

外国法人等

36



80

東証一部上場の ソフト開発関連企業 53社における当社順位

53社中間順位(26位)
における業績

売上高：365億円（26位）
営業利益：28億円（26位）
営業利益率：7.7%（26位）
時価総額：243億円（26位）

中期経営計画
2017年12月期

売上高：170億円（39位）
営業利益：8.5億円（46位）
営業利益率：5.0%（44位）

売上高：137億円（41位）
営業利益：3.5億円（52位）
営業利益率：2.6%（52位）
時価総額：42.6億円（53位）

2014年12月期

今後のポイント：事業規模の拡大



■コスト削減機会創出■

重複コスト(管理費等)減による
連結営業利益増大

■業界内プレゼンスの向上■

- ・対顧客信用力向上
- ・業務対応能力向上
(技術者広範囲拡大)
- ・業績向上/資本効率向上



本資料は、2015年12月期決算の業績に関する情報の提供と、当社に対するご理解をより深めて頂くことを目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は2015年6月末時点の状況において作成しております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し、又は約束するものではなく、また今後予告なしに変更されることがあります。

＜連絡先＞

Email: ir-info@isb.co.jp

URL : <http://www.isb.co.jp/>

株式会社 **アイ・エス・ビー**